

1732 ニシキゴイの高密度・多回生産技術の開発

1 中核機関・研究総括者

新潟県内水面水産試験場 樋口 正仁

2 研究期間

2005～2007 年度（3 年間）

3 研究目的

ニシキゴイの養殖業界では、新潟県中越地震の被災を逃れた限られた養殖池を高度に利用することが課題となっている。このため、ニシキゴイの高密度・多回生産技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 高密度生産のための飼育管理技術の開発（新潟県内水面水産試験場、長野県水産試験場）
高密度飼育に適した給餌方法および水質管理の方法の開発を行う。
- ② 多回生産のための飼育管理技術の開発（新潟県内水面水産試験場、群馬県水産試験場）
1 年に複数回の生産が可能となる親魚養成技術および飼育管理技術の開発を行う。
- ③ ニシキゴイ高度養殖システムの開発（（独）中央水産研究所）
既存の養殖技術と新たな技術を統合し、集約性・生産性・防疫性の高い効率的ニシキゴイ養殖システムの開発を行う。

5 目標とする成果

生産性の高いニシキゴイの養殖技術が確立される。これにより、養殖池当たりの生産効率の向上、ニシキゴイ養殖業界の復興および発展が期待される。

ニシキゴイの高密度・多回生産技術の開発

ニシキゴイ養殖の現状

新潟中越地震の発生 → 養殖池の減少
海外における需要拡大 → 生産量の増大



ニシキゴイ業界の復興には…

限られた数の養殖池を高度に
利用する技術が必要

研究内容

高密度生産技術 の開発

餌料培養、給餌技術、
水質管理技術 etc

多回生産技術 の開発

複数回採卵、給餌技術、
疾病対策 etc

高度養殖システムの開発

既存技術の分析、新たな技術の導入

24,000～30,000個体/aの高密度生産
1年あたり2～3回の多回生産

期待される波及効果

生産性の高いニシキゴイ養殖の展開による
ニシキゴイ業界の復興・発展